

# 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8231
担当部課名	保健福祉部	地域医療	課	地域医療 係
事務事業名	急病診療事業(小児急病診療事業)		事業コード	12320

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	生涯にわたる健康づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第3節	市民医療の充実	13年度
施策名	第2施策	救急医療体制の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

急病診療事業実施要綱
------------

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
夜間及び休日における小児救急患者の医療の充実を図るため、初期救急医療機関(ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰ)及び二次救急医療機関に小児科医を配置するとともに、初期救急医療機関での診療時間を延長することにより、市民(小児)が安心して小児科医の診療を受診することを目的とする。		市民全般	
		対象数	小児(0歳~15歳)
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業開始日 平成13年6月30日</li> <li>内容 相模原ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰ、相模原南ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰ(休日昼間のみ)での小児科医による初期診療の実施及び二次救急医療機関の確保</li> <li>相模原ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰでの診療時間の延長(毎夜間PM11:00までを翌朝AM6:00)</li> <li>診療件数(平成13年6月30日~平成14年3月31日) 相模原ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰ、相模原南ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰ 15,987件</li> <li>二次救急医療機関 945件</li> <li>平成13年度委託料 169,894千円</li> </ul>		休日・夜間の救急患者に迅速に対応できるよう、ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰの機能を充実するとともに、初期・二次の救急医療体制の充実を図り、総合的な救急医療体制の確立に努める。	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度~年度

4 評価指標

指標名	夜間・休日における両ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰ及び二次救急医療機関の開設率	両ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰでの利用率	二次救急医療機関での利用率
指標式	各年度の開設日 / 各年度開設予定日 × 100	各年度の利用者数 / 各年度の小児人口 × 100	各年度の利用者数 / 各年度の小児人口 × 100
指標設定の意図	両ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰ・二次救急医療機関の開設実績により、その成果を表す	両ｽﾀｰｶﾞﾙｾﾝﾀｰの利用実績により、その成果を表す	二次医療機関の利用実績により、その成果を表す

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標			a 100.0	b 100.0	100.0	
指標			c 32.5	d 32.7	32.7	
指標			e 1.9	f 1.9	1.9	
事業費	決算(予算)額		169,894	179,170	276,015	
	人員・時間数		(0.5人)	(0.5人)	(0.3人)	
	人件費		4,210	4,210	2,526	
	その他経費	0	0	10,053	11,000	0
	合計	0	0	184,157	194,380	278,541
特定財源	0	0	5,150	5,150	8,177	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 A ▼	A : 達成している ( 100%)	= 、 、 の平均値 = 99.8%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%> )		
a	$\frac{100.0}{100.0} \times 100 = 100.0\%$	c	$\frac{32.5}{32.7} \times 100 = 99.4\%$
b		d	
e	$\frac{1.9}{1.9} \times 100 = 100.0\%$	f	
理由 :	小児救急患者を対象とした事業であり、緊急性も問われるものであるため、十分達成されていると考える。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	休日・夜間にメジカルセンターや二次救急医療機関を利用する小児患者の割合が高くなっており、小児科医による診療を願う市民の要望も高いことから、必要性は充分にある。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A : 妥当である	理由 :	市民(小児)の安全を守るもので、事業の性格上費用対効果を図ることは難しい。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 B ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	メジカルセンターでの初期診療は市町村における役割と考えるが、二次救急医療機関での診療は本来は県の事業と考えるが、現状では難しいと思われる。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 A ▼	A : 満足できる	理由 :	急に小児の具合が悪くなった場合なども小児科医への受診が可能となり、安心して子育てができる環境が整備されたと考える。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	急病診療事業を実施していく上で、小児急病診療事業は有効なものとする。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 小児科医への受診を希望する割合は今後も高くなると予想されるため、向上の余地は充分ある。</p>	
	<p>コスト改善余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 経費の内容が医師等の人件費のため、現状での改善は難しい。</p>	

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	横浜市、川崎市、藤沢市等は、本市と同様な体制で実施をしている。
	<p>今後の進め方</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止</p> <p><input type="checkbox"/> 完了</p>		
		説明	本市のように市民病院を持たない自治体では、県内では初めてであり、全国的にみてもあまり例がなく、子育てを行っていく上では画期的な事業と考えている。

8 二次評価における変更点

--